

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

psora ト Physiaceae トノ近似ヲ考慮シテ居タト推定スルハ僻目カ

【牧野云フ】前條朝比奈先生ノ書カレタ地衣ニ和名ノナイノハ何トナク物足りナイ感ジガスルノデ誠ニ僭越ノ至リデハアルガ私ハチャールブルックネル博士ノ之レニ與ヘラレタ其學名ト同様ノ意味デ茲ニあさひなごけノ新和名ヲ本品ニ下シ和名ヲ以テシテモ同ジク同先生ヲ紀念スルコトニシタ

○緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

杜 仲 軒 主 人

余ハ天下無名ノ一人トシテ、同ジク無名ノ學究デアル緒方正資君ノ大著『日本羊齒類圖集』ヲ江湖ニ紹介スル著者緒方君ガ東京帝國大學醫學部藥學科員トシテ、朝比奈泰彦教授ノ主宰スル生藥學教室ノ人トナッタノハ大正七年デアッタト聞ク、當時緒方君ハ既ニ邦内諸州ノ植物ニ通ジ特ニ本邦西南部、琉球及ビ臺灣ノ植物ニ精通シテ居タノデ氏ハ朝比奈博士ヲ佐ケテ教室ニアリテハ標本ノ製作整理ニ没頭シ時ニハ各地ノ山川ニ親ンデ其間幾多ノ草木ニ接シタ其爲メ氏ノ新發見ニ上リ始メテ學界ニ知ラレタモノモ尠クハナカッタ

マタ學生ノ採藥ニハ常ニ指導ノ任ニ當リ現時ノ藥學士ニシテ氏ノ教化ニ浴シナイモノハ極メテ鮮イ程デアル、コノ様ニ多忙ナル公務ノカタハラ氏ハ年來最モ深キ興味ヲ有セシ羊齒類ヲ本邦ノ領域内ニ求メ自カラ之レガ蒐集ニ從事シ且其ノ研究ニ入り遂ニ一々其寫生ヲ試ミ始メ、孜々トシテ倦ムコトヲ知ラズ其結果十數年間ニ數百ノ寫生ヲ敢行スルニ至ッタ

氏ノ此ノ舉タル、モトヨリ何等特別ノ目的ヲ有セズ、タゞ自己ノ研究慾ノ満足ヲ滿タス爲メデアッタ、サレバ彼ノ爲ス所ハ全ク時間ヲ超越シ勢力ヲ無視シ超然トシテ名利ノ域外ニ立チ、ヒタスラ自己ノ満足スル圖ヲ作製スルコトニ熱中シテ居タノデアル

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

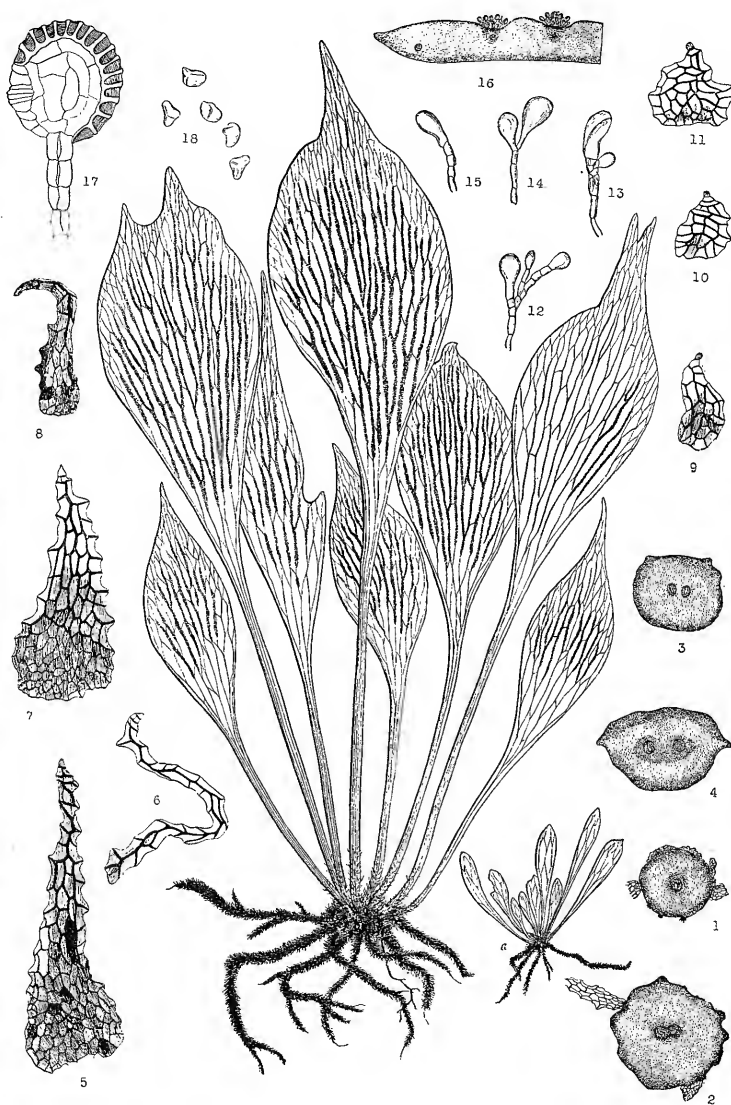


『日本羊齒類圖集』ノ著者緒方正資君

Mr. MASASUKE OGATA, Author of "Icones Filicum Japoniae."

(昭和四年三月東京帝大藥學教室ニテ撮影)

此クノ如クニシテ『日本羊齒類圖集』ノ原稿圖ハ自己モ人モ氣付カザル間ニ多數ニ達シタ、恐ラク過去ヲ顧ミテ氏ハ感慨無量デアラウシクシテ世ニ出デタルモノ

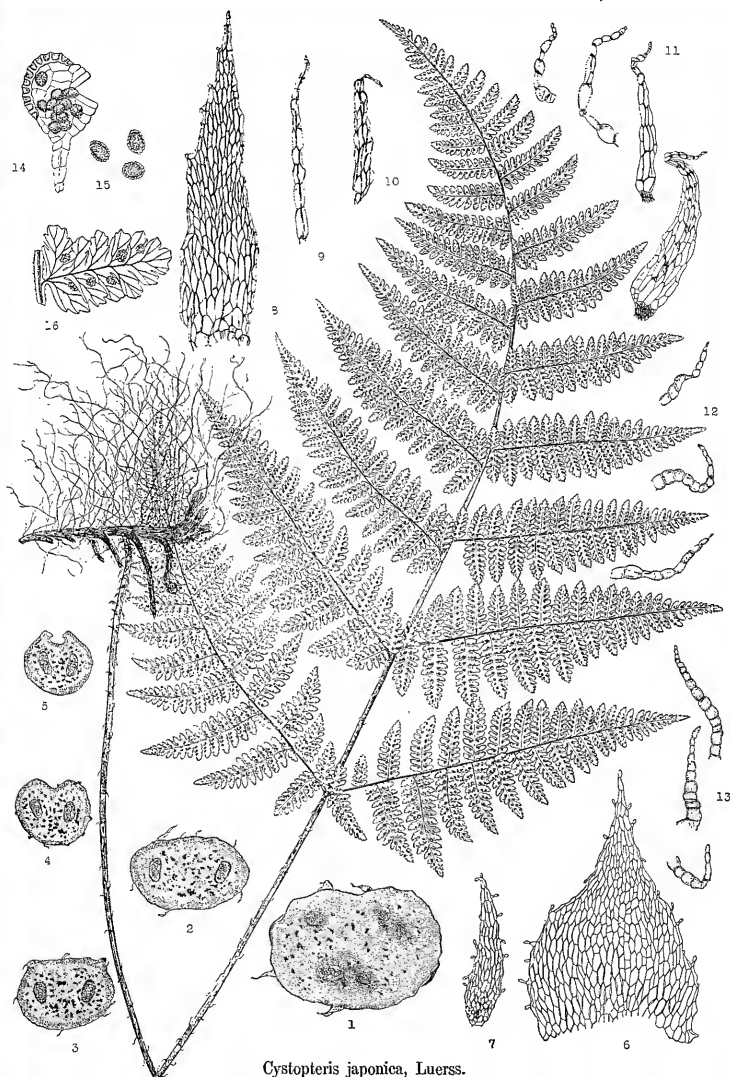


Antrophyum japonicum, Makino.

たきみしだ

M. Ogata, del.

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル



Cystopteris japonica, Luerss.

M. Ogata, del.

うすひめわらび

『日本羊齒類圖集』第一輯中ノ一圖面 (縮小)

有スルモ
ノ背景ヲ
ル、名利
モノデア
添フ如キ
影ノ形ニ
利ノ臭ハ
書ニハ名
ンガ爲ノ
總テ賣ラ
アル
ハ當然デ
ニ無イノ
其痕跡ダ
利ノ臭ハ
集』ニ名
羊齒類圖
上『日本
デアアル以

ノニハ、ハナモチナラヌ何物カバアル、ドコトナク其臭味ガアル、略筆ガアル、マタ多少ノ誤魔化シモアル、然ルニ緒方君ノ書ニハ其レガナイ、絶無デアル

氏ハ元來ガ着實一點張りノ性格ノ持主デアルカラ氏ハ名利ノタメノ仕事ハ到底ナシ得ナイ人間デアル、サレバ氏ハ全ク自己ノ満足點ヲ標準トシテ出發シテコ、ニ達シタノデアル

何人ト雖モ利益ヲ目安トシテヤル以上自己ノ満足セザルモノヲ世ニ問フ様ナ結果ニ落ツルノハ當然デアルガ名利ヲ離レテ自由ノ境地ニ活動シタ時始メテ自他共ニ満足スル程度ノモノガ出來上ルノモマタ當然デアル

余ハ『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スルコトニアタリ何事ヨリモ先ヅ第一ニ世ニ知ラセタイノハ以上述べタ來歴ト氏ノ態度トデアル

緒方君ハ與ヘラレタル時間内ニ與ヘラレタ丈ノ事ヲ成就シテ獲得シ得ル様ナ肩書ノ所有者デモナケレバ、馬車馬ノ如ク人ノ指揮命令ニ默々トシテ圖ヲ描クヲ以テ能事トスル圖工ノ様ナ人柄デモナイ、即チ型ニハマリタル人物デハナイ、彼ハ熊本縣人ノ典型ト謂フベキ不羈獨立ノ精神ノ所有者デアル、故ニ氏ノ描出シタル圖上ニハ氏ノ人格ガ躍如トシテ現レテ居ル

古來評論家ノ多クハ著者ノ人格ノ表現サレテ居ル作品ニ對シ異狀ナル興味ヲ見出シテ居ル如ク吾人モ今コノ書ニ於テ異狀ナル興味ヲ見出サズニハ居ラレナイ

コノ書ハ更ニ續刊サルベキ七集中ノ第一集トシテ昨冬出版サレタモノデ邦產羊齒類ノ五十種ヲ掲ゲテ居ル、然シテ其圖ハ皆實物大デ高サ一尺三寸横一尺ノ大形本デアツテ、各圖ニ相對シテ解説ガ付シテアル、表装モマタ内容ニフサハシク且優美デアル

マタ各圖ノ材料トシテ用キラレタルモノハ標本トシテ氏自カラ保有シテ居ルモノデアルカラ實物ニ對スル原圖ト共ニ原圖ニ對スル實物ガ氏ノ手元ニ保存サレテ居ルノデアル、カクノ如キハ氏ノ如キ人ニシテ始メテ可能デ

アル

人或ハ言フカモ知レナイ、氏ノ圖ハ余リニ寫生のニシテ雅味ガナイト、余モマタ之ヲ肯定スル、シカシ其處ニ氏ノ人格ノ表現ガアルノミナラズ學術的寫生圖トシテ貴イ生命ガ存スルノデアル、即チ學術的良心ヲ有スル人ノ圖トシテハコレガ至善最良デアル

若シコノ圖ガ所謂繪心ノアル人ノ圖デアッテ藝術的野心ノ様ナモノガ伏在スル圖デアッタナラ其レハ甚ダ價値ノ尠イモノトナル

氏ハ務メテ主觀ヲ退ヅケ嚴然トシテ客觀的態度ヲ維持シ實物ヲ實物トシテ紙上ニ表現セントシタモノデアル、其爲メ緒方君ハ人知レヌ苦勞ヲ重ネ幾多ノ時間ヲ費シタノデアル、此、ニ此ノ圖ノ生命ガアル、畫工ノ技ト異ルトコロガアル、彼等ノ模放シ能ハザルトコロガアル、サレバ本書ハ明治、大正、昭和ノ三代ヲ通ジテ出現シタ各方面ノ多クノ巨篇、名作ト比肩シテ、時代ヲ超越シテ存在スベキ資格ト運命トヲ十二分ニ具有スル名作デアルト言ヘヤウ

余ハ氏ノ書ヲ紹介スルト稱シテ余リニ多ク氏ニ就テ述ベタ、然シ余ハ氏ノ人トナリト氏ノ態度トヲ紹介スルヲ以テ『日本羊齒類圖集』ノ本質ヲ紹介シ得ルト信ズルカラデアル

尙此ノ書ノ上梓セラル、ニ至リシ經路ヲモ併セテ紹介スル即チ此ノ書ハ營利的ニ刊行サレタモノデハナイ、マタ非賣品トシテ人ノ手ニ入り易カラザル出版物デモナイ、然ラバ著者ノ自費出版物カトイフニソーデモナイ、即チ其費用ノ全部ハ大阪市ニ於ケル本邦藥業界ノ重鎮武田長兵衛氏ノ出資ニ依ッタモノデアルガ其レガマタ尋常一樣ノ出資振リデハナイ

武田氏ハ緒方氏ノ事業ニ感奮シ且ツ此ノ書ノ世ニ出ヅルヲ以ッテ學界ヲ裨益スルモノナルヲ察シ著書ニ出版ヲ慫慂シテ無條件ニテ出版費ヲ提供シタノデアル

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

此ノセチ辛キ澆季ノ世ニ於テ斯クノ如キ著者ノ存スルサヘ既ニ異數ナノニ更ニカ、ル出資者ノ出現シタルハ現代ニ於ケル奇蹟デアルト言フモ敢テ之ヲ否定シ得ル人ハアルマイ

此ノ書一度市ニ出デテ天下好學ノ士ハ競フテ之ヲ求メタ、即チ通俗ニ言ヘバ甚ダ賣レ行ガ好カッタ、海外人ハ驚異ノ眼ヲ以テ注意シテ來タ、其ノ爲メ本書ハ殘本ガ少クナリ一種ノ限定刊行物トナッタノデアアルガ出資者ハ勿論半錢ノ利益ヲ求ムルサヘ敢ヘテシナイ、マタ著者ノ如キハ殆ンド利益ノ分配ニアヅカツテ居ナイ是レ此ノ書ガ一般刊行本ニ比シ極端ニ廉價ナ理由デアラウ

若シ此ノ書ノ刊行ニヨリ物質的利益ヲ贏チ得タルモノアリトスレバ其レハ印刷業者ト書肆トデアアル、然モ緒方君ハ平然トシテ第二集上梓ノ準備ニトリカ、リ一言ノ不平モ洩ラサズニ居ル、此、ニ至ツテ著者ハ當代稀有ノ奇人デアル

羊齒ハ花ノナイ植物デアアル即チ隱花植物デアアル、而カシテ著者モ出資者モ隱花植物ノ様ニぢみナ態度ヲ示シテ居ル、然カモ其レガ昭和ノ現代ニ於テノ事實デアアル

當代ハ文化ノ世デアアル、明治初年ノ言葉デ言ヘバ文明開化ノ世デアアル、文明開化ノ明治ヨリ文化ノ高唱サレル昭和ノ現代ニカケテ名實相伴フ文化事業デ、然カモ後世ヲ裨益スルモノガ、甚ダ多カッタニハ相違ナイニシテモ緒方、武田兩氏ニヨリ吾人ノ眼前ニ公開サレタルコノ事業ハ正ニ古今東西ニ誇ルニ足ル文化事業ノ一トシテ取扱ハルベキ性質ヲ多分ニ有スルモノデアツテ人文發達ノ上ニ貢獻スルモノデアアル

以上、イサ、カ裏面ノ事情ヲ發表シテ『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スルコト、シタ、是レ徒ラニ世間人ノ購賣慾ヲ促進サセル様ナ目的ヲ以ツテコノ書ノ紹介ヲ書クコトハ俳聖芭蕉ガ正札ヲツケテ店頭ニサラサレタル自然ノ美術品ニ對シ「白魚に價あるこそ恨みなれ」ト詠マレタト同様ナ感ジガ余ノ胸ノ中ヲ往來スルカラデアアル（殘本ガ多少丸善ニアル）